令和８年度　東京医科大学医学部医学科　自由な学び系科目シラバス

令和８年４月１日 第１版

科目名	形式	前期・後期	単位	頁
海外臨床実習コミュニケーション	演習	通期	0.5	1
USMLE受験準備コース	演習	通期	0.5	6
Road to Top Surgeon コース１	演習	通期	0.5	11
Road to Top Surgeon コース２	演習	通期	0.5	16
地域医療リーダーズコース１	演習	通期	0.5	21
地域医療リーダーズコース２	演習	通期	0.5	25
地域医療リーダーズコース３	演習	通期	0.5	29
地域医療リーダーズコース４	演習	通期	0.5	33
地域医療リーダーズコース５	演習	通期	0.5	37
リサーチ・コース１	演習	通期	0.5	41
リサーチ・コース２	演習	通期	0.5	46
リサーチ・コース３	演習	通期	0.5	51
リサーチ・コース４	演習	通期	0.5	56
リサーチ・コース５	演習	通期	0.5	61
リサーチ・コース６	演習	通期	0.5	66

開講科目名／Course	海外臨床実習コミュニケーション	
時間割コード ／Course Code	11300100	
ナンバリングコード／Numbering Code	13001	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	5	
主担当教員／Main Instructor	小島　多香子	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	小島 多香子	
科目担当者 ／Course Instructor	小島多香子（国際教育研究センター）	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	海外臨床実習に向け、日常英会話、医療英会話などのコミュニケーション力を強化し、現地の生活・実習マナーなど異文化理解を深め、多元的な視点を得ることを目標とする。また、派遣先の国が抱える社会問題や医療制度・事情などに関連した記事を読み、医療における社会的背景の知識を深める。講義は、アクティブラーニングを取り入れ、グループ別あるいはクラス全体でアクティビティ、ディスカッション、発表などを行う。さらに、海外臨床実習後の医学会発表に必要な基礎知識についての学修とトレーニングを行う。講義は対面で実施する。(対面で参加が難しい場合はZoom参加可）補講は予定していない。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	国内外のさまざまなトピックについて関心を持ち、積極的に議論できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	9・②・B
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	一般的英語表現、ならびに科学・医学の専門表現が理解できるとともに、英語を 用いて自らの考えを発信できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	9・③・B
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	他者の価値観や人格を尊重し、敬意を払って接することができる。

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	1-2・①・B
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	

	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods		
ICT活用 ／ICT Utilization		
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	20分
	予習内容 ／Preparation content	
	復習時間 ／Review time	20分
	復習内容 ／Review content	
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	3分の2以上出席した者に対し、パフォーマンスおよび課題レポートにより評価する。
	最終評価点 ／Final score	
	合格点 ／passing score	
	筆記試験の形式 ／Written exam format	
	再試験・対象者 ／Re-examination and	
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	
	再試験・方法 ／Re-examination and method	
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	質問については講義時間内で回答する。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration		
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours		
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	本学学生向けに作成した教材を配布する。	

参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
水 5　対面	Orientation, culture, intercultural awareness	文化による価値観の違いについて学ぶ culture, discussion	小島多香子
水 5　対面	Intercultural Awareness and Communication	異文化理解と異文化適応について理解することができる。 Roleplay, culture, discussion	小島多香子
水 5　対面	Business emails, pronunciation	English expressions, pronunciation Roleplay, discussion	小島多香子
水 5　対面	Communication Styles	英語の異なる表現の仕方について理解する。 Roleplay, discussion	小島多香子
水 5　対面	Manners	英語でのディスカッション・コミュニケーションを取ることができる。 Roleplay, discussion	小島多香子
水 5　対面	Short presentations	現地の医療制度や医療事情について知ることができる。 Presentation, discussion	小島多香子
水 5　対面	Safety issues	英語でのディスカッション・コミュニケーションを取ることができる。 Roleplay, discussion	小島多香子
水 5　対面	Giving effective English presentations	口頭発表に必要なスキルを身につけることができる。 Presentation skills	小島多香子

開講科目名／Course	USMLE受験準備コース	
時間割コード ／Course Code	11300200	
ナンバリングコード／Numbering Code	13002	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	2,3,4,5	
主担当教員／Main Instructor	黒田　雅彦	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	黒田 雅彦	
科目担当者 ／Course Instructor	・黒田雅彦（分子病理学）・山田侑子（分子病理学）・小島多香子（国際教育研究センター）	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	本コースでは、USMLE STEP1の受験準備をする。受験者の体験談を聞き、必要な医学英語の復習をし、症例検討をする。 講義は、オンデマンド配信を主体とする。 症例検討では、USMLEに必要な医学英語表現の学習とトレーニングを行う。 補講は予定していない。 この講義への参加のみで受験突破は困難であるのは言うまでもないが、受験の動機付けや、勉強の仲間作り、勉強方法の共有化を理解することを目標とする。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	USMLE受験に関心を持ち、幅広い教養を身につけるべく積極的に行動できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	9・①・D
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	国際的視野を持った上で、海外留学に関心を持つことができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	9・②・D
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	一般的英語表現ならびに科学・医学の専門表現が理解できる。

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	9・③・D
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	

	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	USMLE STEP1の受験準備をする。 受験者の体験談を聞き、必要な医学英語の復習をし、基礎の問題を解く。 この講義への参加のみで受験突破は困難であるのは言うまでもないが、受験の動機付けや、勉強の仲間作り、勉強方法の共有化を理解することを目標とする。 毎回、レポートを提出（講義内容のまとめ、講義の質問など）する。	
ICT活用 ／ICT Utilization		
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	なし
	予習内容 ／Preparation content	
	復習時間 ／Review time	毎回、レポートを提出する。
	復習内容 ／Review content	
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	5回以上出席したものに対し、課題を評価し、積極性、理解度をもとに単位を与える。
	最終評価点 ／Final score	
	合格点 ／passing score	60点
	筆記試験の形式 ／Written exam format	
	再試験・対象者 ／Re-examination and	
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	
	再試験・方法 ／Re-examination and method	
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	レポートをチェックし、返却する。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	2-5年で1回履修する。	

オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	●分子病理学 黒田 雅彦 主任教授 東京医科大学 分子病理学分野 主任教授室 03-3351-6141（内線234） kuroda@tokyo-med.ac.jp 月-金 9:00-17:00 山田 侑子 研究助教 東京医科大学 分子病理学分野 第一研究室 03-3351-6141（内線235） yamayu@tokyo-med.ac.jp 月・水・木・金 9:00-16:00
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	First aid for theUSMLE STEP1, Q&A for the USMLE STEP 1
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
web （5/30）	USMLE受験・勉強法	USMLEについて知る 1.USMLEの必要性 2.USMLEの勉強方法	江頭 遼太郎、牛谷優里亜（分子病理学分野）
web（6/20）	USMLE受験・勉強法	USMLEについて知る 1.USMLE受験までの流れ 2.USMLEの勉強方法 3.USMLE受験の実際	鶴井 敏光（分子病理学分野）
web（7/18）	米国における医学	医療人としてグローバルに活躍するための資質を学ぶ 米国における臨床研究	小川真一郎（分子病理学分野）
web （8/29）	留学の意義	医療人としてグローバルに活躍するための資質を学ぶ 医療人としての英語力	寺田 直弘（分子病理学分野）
web（9/19）	米国研修医の生活	USMLEについて知る 1.USMLE合格後、レジデントになるまでの過程 2.米国研修医の生活 3.日本の医療界との違い	陳 佳奈（分子病理学分野）
web （10/31）	USMLEの動機付け	USMLEについて知る 1.USMLEの必要性 2.USMLEの勉強方法 3.日本の国家試験との相違点 4.海軍病院とは 4.マッチングについて	江頭 遼太郎、牛谷優里亜（分子病理学分野）
web（11/21）	医療面接1	英語による医療面接ができる Clinical English Skills	押味貴之（国際教育研究センター）
web（12/19）	医療面接1	英語による医療面接について学ぶ Clinical English Skills	押味貴之（国際教育研究センター）

開講科目名／Course	Road to Top Surgeon　コース１	
時間割コード ／Course Code	11300300	
ナンバリングコード／Numbering Code	12003	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	3	
主担当教員／Main Instructor	永川　裕一	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	永川 裕一	
科目担当者 ／Course Instructor	刑部 弘哲 講師、笠原 健太 講師、松本 萌 助教、櫻井 徹 助教 、筋野 博喜 助教、他（消化器・小児外科学）、田村 温美 助教、江里口 大介 助教、山道 尭 助教、村上 浩太郎 助教、他（呼吸器・甲状腺外科学）・藤吉 俊毅 准教授、加納 正樹 講師 （心臓血管外科学）、他	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	学生時代から最新の外科学・手術を体験することができる 外科領域の必須の技術と知識を修得しながら、近未来の外科臨床、研究を見据えた準備を行う Dxを活用した外科学・手術を体験しつつ、基盤となる工学・情報通信学の基礎を学ぶ	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	

	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	

	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods		
ICT活用 ／ICT Utilization		
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	20分
	予習内容 ／Preparation content	
	復習時間 ／Review time	20分
	復習内容 ／Review content	
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	・実習中の実技やプレゼン、筆記試験で評価する。 ・学修段階に応じて、技術水準を示す認定を行う（バッジによるcertification）。
	最終評価点 ／Final score	100点
	合格点 ／passing score	60点
	筆記試験の形式 ／Written exam format	
	再試験・対象者 ／Re-examination and	
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	
	再試験・方法 ／Re-examination and method	
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	質問については授業時間内で回答する。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	・定員20名 ・希望者が定員を超える場合は、志望理由書、面接を基に選抜する	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours		
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)		
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)		

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
演習	・総論：外科手術の変遷・進歩		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
演習	・手術手技実習①基本手技のトレーニング：縫合キットを用いた実習 ・臓器別外科講義①		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
演習	・未来の外科手術 1（AI、VR ）：外科解剖のランドマーク　画像から術野まで ・臓器別外科講義②		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
演習	・手術手技実習②ロボットトレーニング：シミュレーター実習 ・画像演習① ・臓器別外科講義③		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
演習	・エキスパート講演（ロボット手術、NCD、臨床試験 等） ・手術手技実習③ドライラボ（結紮・縫合）		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
	・テーマ別講演（留学、女性外科医から伝えたいこと） ・手術手技実習④豚臓器を使用したドライラボ		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
演習	・手術手技実習⑤ドライラボ（縫合・縫合の総復習） ・画像演習② ・臓器別外科講義④		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
演習	・総括：外科手技修練度の確認（実技）、画像演習の総復習（筆記形式） ・修了証授与		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師

開講科目名／Course	Road to Top Surgeon　コース２	
時間割コード ／Course Code	11301300	
ナンバリングコード／Numbering Code	13013	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	4	
主担当教員／Main Instructor	永川　裕一	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	永川 裕一	
科目担当者 ／Course Instructor	刑部 弘哲 講師、笠原 健太 講師、松本 萌 助教、櫻井 徹 助教 、筋野 博喜 助教、他（消化器・小児外科学）、田村 温美 助教、江里口 大介 助教、山道 尭 助教、村上 浩太郎 助教、他（呼吸器・甲状腺外科学）・藤吉 俊毅 准教授、加納 正樹 講師 （心臓血管外科学）、他	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	学生時代から最新の外科学・手術を体験することができる 外科領域の必須の技術と知識を修得しながら、近未来の外科臨床、研究を見据えた準備を行う Dxを活用した外科学・手術を体験しつつ、基盤となる工学・情報通信学の基礎を学ぶ	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	

	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	

	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods		
ICT活用 ／ICT Utilization		
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	20分
	予習内容 ／Preparation content	
	復習時間 ／Review time	20分
	復習内容 ／Review content	
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	・実習中の実技やプレゼン、筆記試験で評価する。 ・学修段階に応じて、技術水準を示す認定を行う（バッジによるcertification）。
	最終評価点 ／Final score	100点
	合格点 ／passing score	60点
	筆記試験の形式 ／Written exam format	
	再試験・対象者 ／Re-examination and	
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	
	再試験・方法 ／Re-examination and method	
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	質問については授業時間内で回答する。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	・定員20名 ・希望者が定員を超える場合は、志望理由書、面接を基に選抜する ・前年度履修者はよりアドバンスな手術手技実習を行う予定である	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours		
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)		
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)		

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
演習	・総論：外科手術の変遷・進歩		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
演習	・手術手技実習①基本手技のトレーニング：縫合キットを用いた実習 ・臓器別外科講義①		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
演習	・未来の外科手術 1（AI、VR ）：外科解剖のランドマーク　画像から術野まで ・臓器別外科講義②		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
演習	・手術手技実習②ロボットトレーニング：シミュレーター実習 ・画像演習① ・臓器別外科講義③		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
演習	・エキスパート講演（ロボット手術、NCD、臨床試験 等） ・手術手技実習③ドライラボ（結紮・縫合）		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
	・テーマ別講演（留学、女性外科医から伝えたいこと） ・手術手技実習④豚臓器を使用したドライラボ		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
演習	・手術手技実習⑤ドライラボ（縫合・縫合の総復習） ・画像演習② ・臓器別外科講義④		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師
演習	・総括：外科手技修練度の確認（実技）、画像演習の総復習（筆記形式） ・修了証授与		刑部 弘哲講師、笠原 健太講師、松本 萌助教、櫻井 徹助教 、筋野 博喜助教、田村 温美助教、江里口 大介助教、山道 尭助教、村上 浩太郎助教、藤吉 俊毅准教授、加納 正樹講師

開講科目名／Course	地域医療リーダーズコース１	
時間割コード ／Course Code	11300400	
ナンバリングコード／Numbering Code	11004	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	1	
主担当教員／Main Instructor	三苫　博	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	三苫 博	
科目担当者 ／Course Instructor	野平 知良	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	将来、地域医療の先頭に立って地域の患者の健康に寄与できる人材を育成する。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	地域医療に関わる他職種の役割と他職種連携を理解する。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	7・①・D
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	地域医療で要求される視点を説明できる
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	8-1・①-④・D、8-2・①-③・D
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	

授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	国内の地域医療の特徴を地域主催の講習、小グループ討議（SGD）を通して理解する。	
ICT活用 ／ICT Utilization	e自主自学を利用した資料の提示とポートフォリオへのレポート掲示	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30～60分
	予習内容 ／Preparation content	講義に向けた予習課題内容の検索・学習とレポート作成
	復習時間 ／Review time	30~60分
	復習内容 ／Review content	参加した自治体主催の講習の内容をまとめ、提出用レポートを作成しポートフォリオへ提出
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	授業への出席（60%）とSGDの評価表（40%）
	最終評価点 ／Final score	授業への参加状況（出席・SGDへの参加内容）を評価対象とする。
	合格点 ／passing score	80%以上の出席が評価条件、評価表60点以上で単位認定とする。
	筆記試験の形式 ／Written exam format	なし
	再試験・対象者 ／Re-examination and	評価表60点未満の者（最低点の条件なし）
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	学年終了時の3月末日
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	レポート課題として提示
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	
	再試験・方法 ／Re-examination and method	レポート提出
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	個別の面談およびポートフォリオ上での記述
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	医学教育学分野、実習病院など関係部署からの連絡に対し、返信しない（連絡に気づかない場合も含む）、無断で遅刻・欠席するなどの行為があった場合は、単位認定を行わなず、状況によりアンプロフェッショナル行為と認定する。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）	
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	指定なし	
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	指定なし	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
4～7月期の平日17:30以降に90分以内の講義をzoomで行う。　全体講義	地域医療総論	地域医療で要求される視点を説明出来る 地域医療、医療圏	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	地域でのディスカッション	自らの地域の特性を説明出来る 地域医療の現状	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	地域でのディスカッション	自らの地域の特性を説明出来る 地域医療の現状	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　SGD	修学生の集い１	自らの医療圏の特徴を説明出来る 医療の地域特性	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　SGD	修学生の集い２	自らの医療圏の特徴を説明出来る 医療の地域特性	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
春期開催の地方自治体主催セミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生スプリングセミナー１	自らの医療圏の問題点を説明出来る 地域医療システム	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
春期開催の地方自治体主催セミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生スプリングセミナー２	自らの医療圏の問題点を説明出来る 地域医療システム	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
各進級試験終了後、対面またはオンラインで行う。　SGD	地域医療における実践演習のまとめ	地域医療における他職種の役割を説明出来る 地域社会と地域医療	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）

開講科目名／Course	地域医療リーダーズコース２	
時間割コード ／Course Code	11300500	
ナンバリングコード／Numbering Code	12005	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	2	
主担当教員／Main Instructor	三苫　博	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	三苫 博	
科目担当者 ／Course Instructor	野平 知良	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	将来、地域医療の先頭に立って地域の患者の健康に寄与できる人材を育成する。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	地域医療に関わる他職種の役割と他職種連携を理解する。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	7・①・D
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	地域医療で要求される視点を説明できる
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	8-1・①-④・D、8-2・①-③・D
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	

授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	国内の地域医療の特徴をPBL、小グループ討議（SGD）を通して理解する。	
ICT活用 ／ICT Utilization	e自主自学を利用した資料の提示とポートフォリオへのレポート掲示	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30～60分
	予習内容 ／Preparation content	講義に向けた予習課題内容の検索・学習とレポート作成
	復習時間 ／Review time	30~60分
	復習内容 ／Review content	SGDの内容をまとめ、提出用レポートを作成しポートフォリオへ提出
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	授業への出席（60%）とSGDの評価表（40%）
	最終評価点 ／Final score	授業への参加状況（出席・SGDへの参加内容）を評価対象とする。
	合格点 ／passing score	80%以上の出席が評価条件、評価表60点以上で単位認定とする。
	筆記試験の形式 ／Written exam format	なし
	再試験・対象者 ／Re-examination and	評価表60点未満の者（最低点の条件なし）
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	学年終了時の3月末日
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	レポート課題として提示
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	
	再試験・方法 ／Re-examination and method	レポート提出
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	個別の面談およびポートフォリオ上での記述
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	医学教育学分野、実習病院など関係部署からの連絡に対し、返信しない（連絡に気づかない場合も含む）、無断で遅刻・欠席するなどの行為があった場合は、単位認定を行わなず、状況によりアンプロフェッショナル行為と認定する。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）	
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	指定なし	
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	指定なし	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
4～7月期の平日17:30以降に90分以内の講義をzoomで行う。　PBL	地域医療と社会	地域医療に携わる行政の役割を具体的に説明出来る 地域医療、社会システム	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生サマーセミナー1	自分の地域の自治体の取り組みを説明出来る 地域医療、社会システム	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生サマーセミナー2	自分の地域の自治体の取り組みを説明出来る 地域医療、社会システム	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　SGD	修学生の集い１	自らの医療圏の社会的問題点を説明出来る 人的要因、自治体、社会状況	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　SGD	修学生の集い２	自らの医療圏の社会的問題点を説明出来る 人的要因、自治体、社会状況	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
春期開催の地方自治体主催セミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生スプリングセミナー１	自らの医療圏の地域医療の多職種連携を説明出来る 地域医療システムを構成する人的要素	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
春期開催の地方自治体主催セミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生スプリングセミナー２	自らの医療圏の地域医療の多職種連携を説明出来る 地域医療システムを構成する人的要素	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
各進級試験終了後、対面またはオンラインで行	iPEG（地域医療・多職種連携ゲーム）参加	地域医療に携わる他職種の役割を具体的に説明出来る	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）

開講科目名／Course	地域医療リーダーズコース３	
時間割コード ／Course Code	11300600	
ナンバリングコード／Numbering Code	12006	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	3	
主担当教員／Main Instructor	三苫　博	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	三苫 博	
科目担当者 ／Course Instructor	野平 知良	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	将来、地域医療の先頭に立って地域の患者の健康に寄与できる人材を育成する。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	地域医療に関わる他職種の役割と他職種連携を理解する。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	7・①・D
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	地域医療で要求される視点を説明できる
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	8-1・①-④・D、8-2・①-③・D
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	

授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	診療所、地域中核病院における医療現場を経験する。	
ICT活用 ／ICT Utilization	e自主自学を利用した資料の提示と実習記録のポートフォリオへの提出	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30～60分
	予習内容 ／Preparation content	講義に向けた予習課題内容の検索・学習とレポート作成
	復習時間 ／Review time	30~60分
	復習内容 ／Review content	実習の内容をまとめ、提出用レポートを作成しポートフォリオへ提出
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	授業への出席（60%）とSGDの評価表（40%）
	最終評価点 ／Final score	授業への参加状況（出席・SGDへの参加内容）を評価対象とする。
	合格点 ／passing score	80%以上の出席が評価条件、評価表60点以上で単位認定とする。
	筆記試験の形式 ／Written exam format	なし
	再試験・対象者 ／Re-examination and	評価表60点未満の者（最低点の条件なし）
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	学年終了時の3月末日
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	レポート課題として提示
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	
	再試験・方法 ／Re-examination and method	レポート提出
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	個別の面談およびポートフォリオ上での記述
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	医学教育学分野、実習病院など関係部署からの連絡に対し、返信しない（連絡に気づかない場合も含む）、無断で遅刻・欠席するなどの行為があった場合は、単位認定を行わなず、状況によりアンプロフェッショナル行為と認定する。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）	
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	指定なし	
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	指定なし	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
4～7月期の平日17:30以降に90分以内の講義をzoomで行う。　セミナー参加	修学生サマーセミナー1	地域医療における病診連携を説明できる 病診連携	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生サマーセミナー2	地域医療における病診連携を説明できる 病診連携	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　臨床実習	地域枠実習（診療所）	地域における一次医療施設の役割を説明出来る 地域医療、社会システム。持続可能な地域医療機関	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　臨床実習	地域枠実習（中核病院）	地域における二次・三次医療施設の役割を説明出来る 地域医療、社会システム、医療の集約化	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　SGD	修学生の集い1	他の医学生と連携することができる 医療ネットワーク、医療マネジメント	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
春期開催の地方自治体主催セミナーに参加（半日参加で1回分）。　SGD	学生の集い2	他の医学生と連携することができる 医療ネットワーク、医療マネジメント	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
春期開催の地方自治体主催セミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生スプリングセミナー1	自らの医療圏内での病診連携を構築出来る 外来・入院・在宅	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
各進級試験終了後、対面またはオンラインで行	iPEG（地域医療・多職種連携ゲーム）参加	地域医療に携わる他職種の役割を具体的に説明出来る	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）

開講科目名／Course	地域医療リーダーズコース４	
時間割コード ／Course Code	11300700	
ナンバリングコード／Numbering Code	12007	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	4	
主担当教員／Main Instructor	三苫　博	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	三苫 博	
科目担当者 ／Course Instructor	野平 知良	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	将来、地域医療の先頭に立って地域の患者の健康に寄与できる人材を育成する。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	地域医療に関わる他職種の役割と他職種連携を理解する。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	7・①・D
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	地域医療で要求される視点を説明できる
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	8-1・①-④・D、8-2・①-③・D
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	

授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	国内の地域医療の特徴をPBL、小グループ討議（SGD）を通して理解する。	
ICT活用 ／ICT Utilization	e自主自学を利用した資料の提示とポートフォリオへのレポート掲示	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30～60分
	予習内容 ／Preparation content	講義に向けた予習課題内容の検索・学習とレポート作成
	復習時間 ／Review time	30~60分
	復習内容 ／Review content	SGDの内容をまとめ、提出用レポートを作成しポートフォリオへ提出
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	授業への出席（60%）とSGDの評価表（40%）
	最終評価点 ／Final score	授業への参加状況（出席・SGDへの参加内容）を評価対象とする。
	合格点 ／passing score	80%以上の出席が評価条件、評価表60点以上で単位認定とする。
	筆記試験の形式 ／Written exam format	なし
	再試験・対象者 ／Re-examination and	評価表60点未満の者（最低点の条件なし）
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	学年終了時の3月末日
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	レポート課題として提示
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	
	再試験・方法 ／Re-examination and method	レポート提出
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	個別の面談およびポートフォリオ上での記述
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	医学教育学分野、実習病院など関係部署からの連絡に対し、返信しない（連絡に気づかない場合も含む）、無断で遅刻・欠席するなどの行為があった場合は、単位認定を行わなず、状況によりアンプロフェッショナル行為と認定する。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）	
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	指定なし	
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	指定なし	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
4～7月期の平日17:30以降に90分以内の講義をzoomで行う。　PBL	地域医療と社会	地域医療に携わる行政の役割を具体的に説明出来る 地域医療、社会システム	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生サマーセミナー1	自分の地域の自治体の取り組みを説明出来る 地域医療、社会システム	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生サマーセミナー2	自分の地域の自治体の取り組みを説明出来る 地域医療、社会システム	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　SGD	修学生の集い１	自らの医療圏の社会的問題点を説明出来る 人的要因、自治体、社会状況	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　SGD	修学生の集い２	自らの医療圏の社会的問題点を説明出来る 人的要因、自治体、社会状況	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
春期開催の地方自治体主催セミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生スプリングセミナー１	自らの医療圏の地域医療の多職種連携を説明出来る 地域医療システムを構成する人的要素	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
春期開催の地方自治体主催セミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生スプリングセミナー２	自らの医療圏の地域医療の多職種連携を説明出来る 地域医療システムを構成する人的要素	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
各進級試験終了後、対面またはオンラインで行	iPEG（地域医療・多職種連携ゲーム）参加	地域医療に携わる他職種の役割を具体的に説明出来る	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）

開講科目名／Course	地域医療リーダーズコース５	
時間割コード ／Course Code	11300800	
ナンバリングコード／Numbering Code	13008	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	5	
主担当教員／Main Instructor	三苫　博	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	三苫 博	
科目担当者 ／Course Instructor	野平 知良	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	将来、地域医療の先頭に立って地域の患者の健康に寄与できる人材を育成する。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	地域医療に関わる他職種の役割と他職種連携を理解する。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	7・①・D
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	地域医療で要求される視点を説明できる
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	8-1・①-④・D、8-2・①-③・D
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	

授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	今後の自分の地域医療への関わりを意識する。	
ICT活用 ／ICT Utilization	e自主自学を利用した資料の提示とポートフォリオへのレポート掲示	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30～60分
	予習内容 ／Preparation content	講義に向けた予習課題内容の検索・学習とレポート作成
	復習時間 ／Review time	30~60分
	復習内容 ／Review content	SGDの内容をまとめ、提出用レポートを作成しポートフォリオへ提出
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	授業への出席（60%）とSGDの評価表（40%）
	最終評価点 ／Final score	授業への参加状況（出席・SGDへの参加内容）を評価対象とする。
	合格点 ／passing score	80%以上の出席が評価条件、評価表60点以上で単位認定とする。
	筆記試験の形式 ／Written exam format	なし
	再試験・対象者 ／Re-examination and	評価表60点未満の者（最低点の条件なし）
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	学年終了時の3月末日
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	レポート課題として提示
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	
	再試験・方法 ／Re-examination and method	レポート提出
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	個別の面談およびポートフォリオ上での記述
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	医学教育学分野、実習病院など関係部署からの連絡に対し、返信しない（連絡に気づかない場合も含む）、無断で遅刻・欠席するなどの行為があった場合は、単位認定を行わなず、状況によりアンプロフェッショナル行為と認定する。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）	
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	指定なし	
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	指定なし	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
4～7月期の平日17:30以降に90分以内の講義をzoomで行う。　セミナー参加	修学生サマーセミナー1	これからの地域医療に必要な視点を説明できる 今後の地域医療	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生サマーセミナー2	これからの地域医療に必要な視点を説明できる 今後の地域医療	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　セミナー参加	修学生の集い1	地域医療における自分のキャリア・パスを説明できる キャリア・パス	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　SGD	修学生の集い2	地域医療における自分のキャリア・パスを説明できる キャリア・パス	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
長期休暇を利用した地方自治体主催のセミナーに参加（半日参加で1回分）。　PBL	地域医療における問題の抽出	自らの医療圏の問題点解決のための住民へのアプローチを立案できる 保健活動、健康増進、福祉活動	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
春期開催の地方自治体主催セミナーに参加（半日参加で1回分）。　PBL	地域医療における問題解決のための具体的アプローチ	自らの医療圏の問題点解決のための住民へのアプローチを立案できる 地域医療システムを構成する人的要素	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
春期開催の地方自治体主催セミナーに参加（半日参加で1回分）。　PBL	修学生スプリングセミナー1	地域医療における今後の自分の関わりを具体的に説明できる 地域住民との関わり	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）
PBL	修学生スプリングセミナー2	地域医療における今後の自分の関わりを具体的に説明できる 地域住民との関わり	野平 知良（医学・看護学教育推進センター）

開講科目名／Course	リサーチ・コース１	
時間割コード ／Course Code	11301400	
ナンバリングコード／Numbering Code	11014	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	1	
主担当教員／Main Instructor	黒田　雅彦	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	黒田 雅彦	
科目担当者 ／Course Instructor	・伊藤正裕（人体構造学）・高橋宗春（組織・神経解剖学）・長尾俊孝（人体病理学）・黒田雅彦（分子病理学）・中村茂樹（微生物学）・横山詩子（細胞生理学）・林由起子（病態生理学）・伊藤美智子（生化学）・金蔵孝介（薬理学）・横須賀忠（免疫学）・井上茂（公衆衛生学）・濱岡隆文（健康増進スポーツ医学）・内ヶ崎西作（法医学）	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	将来、臨床科目を学習し医師として働く上で、基礎医学の知識を理解し、メカニズムと病態と関連させながら考える思考過程「リサーチマンド」を養うことは、とても大切です。本自由選択コースは、配属になった各研究室で与えられる研究課題に関して、実験を計画し、実施し、考察することで新しい自然現象の何かを発見する過程を、実地の演習から学ぶコースです。研究課題に必要な情報をWeb上のデータベースから検索、英語論文を解読するに必要な専門用語の理解を目指します。そして、研究課題に関する基本的な理論と方法論を学習します。さらに、目標として立てた仮説に基づき実験計画を立案し、実施し、得られたデータを解析し、また研究室内でのディスカッションを通して解釈し、オーラルプレゼンテーションや論文によって「世界初の概念を発信する」ことを大きな目標としています。一方で、新しい概念の創出には多大な努力と時間が必要です。年間の時間数は8コマに設定してありますが、実験の進行状況や学生本人の意志で授業時間数の上限はありませんので、科目担当者との相談の上、各自で設定します。また、入学後のいつから基礎研究に関する興味が湧いてくるかは個人差がありますし、また体験だけしたいという希望にも対応するため、コースの参加は1～6年時のいつからでも構いませんし、その間の中断や研究室間の移動も可能です。是非、リサーチャーとして研究の楽しさと醍醐味を体感してください。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	病態に関連する基礎医学の知識を理解し、それらの関連性を提示できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	4・①・C
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	研究課題を遂行する過程で生まれた新たな問題を抽出することができる。

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	5・①・C
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	研究マインドを体得できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	5・⑥・C
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	Web上のデータベースから研究課題に必要な正しい情報を入手し管理できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	6・②・C
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	自らの研究課題に関する英語の専門用語を理解することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	9・③・C
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	研究課題に関する基本的な理論と方法論を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	10・①・C
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	医学研究に関する倫理を理解し説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	10・②・C
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	研究課題に関する論文を読み理解することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	10・③・C
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	

	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	・研究室に通い、実験を行う現場の雰囲気に慣れる。 ・研究室の日常業務に参加し、研究の基礎知識を習得する。 ・オンライン上のさまざまなデータベースにアクセスし、取扱いを習得する。 ・担当指導教員に付き沿い、シャドーイングにて実験手技を理解する。	
ICT活用 ／ICT Utilization	Web上のデータバンクから目的とする情報を検索し自分の研究に応用することができる。	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30分
	予習内容 ／Preparation content	研究課題に関する英語論文を読み、研究の全体の流れを把握しておく。 実験手技に関するプロトコールを理解し実技に備える。
	復習時間 ／Review time	30分
	復習内容 ／Review content	毎回の実験結果をまとめ、考察と共に実験ノートにまとめる。 当日の実験結果から次回の実験や今後の研究の構想を実験ノートに記載する。
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	・3分の2以上出席した者に対し、各演習の目的の達成度で評価する。特に、自分の研究テーマに活 用できる実験スキルを習得できたか、の視点から評価する。 ・欠席した授業は自主自学の時間や放課後に任意で代講を可能とする。
	最終評価点 ／Final score	授業評価（出席点50%）＋実習評価（実験ノートの提出25%＋研究発表25%）
	合格点 ／passing score	出席2/3以上かつ最終評価60%以上
	筆記試験の形式 ／Written exam format	なし
	再試験・対象者 ／Re-examination and	なし
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	なし
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	なし
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	なし
	再試験・方法 ／Re-examination and method	なし
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	毎回の実験ノートは担当指導教官に評価・補完され、次の実験に向けたアドバイスを受ける機会が ある。

履修上の注意 ／Notes for Course Registration	日程は授業（実習）の進行により常時変更しながら進めるため、各科目担当者の指示に従い相談の上で決定する。 研究室や研究内容が希望したものでなかった、また不適合を感じたなどの場合は、リサーチコース１の履修期間内に所属分野を変更することもできる。 成績優秀者は、リサーチコース１を履修中にリサーチコース２の内容を学習することもできる。
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	基本的にいつでも来室、メール、電話可能　大学キャンパスもしくは大学病院 注）各研究室の場所、連絡先電話番号、メールアドレスは総合事務センターもしくは各科目担当者に問い合わせの上で確認
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
実習	ラボミーティング	研究室の雰囲気に慣れ、研究マインドを体得できる。 研究生活	各科目担当者
実習	ジャーナルクラブ（抄読会）	研究課題に関する論文を読み理解することができる。 英語論文読解	各科目担当者
実習	プログレスレポート	研究室内の教員の研究内容を理解し、研究の基本的な理論と方法論を説明できる。 研究発表	各科目担当者
実習	データベース検索	インターネット上のデータベースから研究課題に必要な情報を検索できる。 データ検索	各科目担当者
実習	実験手技のシャドーイング	実験計画を理解し、指導担当者の手技を真似ることができる。 研究手技	各科目担当者
実習	実験手技のシャドーイング	実験計画を理解し、指導担当者の手技を真似ることができる。 研究手技	各科目担当者
実習	実験手技のシャドーイング	実験計画を理解し、指導担当者の手技を真似ることができる。 研究手技	各科目担当者
実習	実験手技のシャドーイング	実験計画を理解し、指導担当者の手技を真似ることができる。 研究手技	各科目担当者

開講科目名／Course	リサーチ・コース２	
時間割コード ／Course Code	11301500	
ナンバリングコード／Numbering Code	11015	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	2	
主担当教員／Main Instructor	黒田　雅彦	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	黒田 雅彦	
科目担当者 ／Course Instructor	・伊藤正裕（人体構造学）・高橋宗春（組織・神経解剖学）・長尾俊孝（人体病理学）・黒田雅彦（分子病理学）・中村茂樹（微生物学）・横山詩子（細胞生理学）・林由起子（病態生理学）・伊藤美智子（生化学）・金蔵孝介（薬理学）・横須賀忠（免疫学）・井上茂（公衆衛生学）・濱岡隆文（健康増進スポーツ医学）・内ヶ崎西作（法医学）	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	将来、臨床科目を学習し医師として働く上で、基礎医学の知識を理解し、メカニズムと病態と関連させながら考える思考過程「リサーチマンド」を養うことは、とても大切です。本自由選択コースは、配属になった各研究室で与えられる研究課題に関して、実験を計画し、実施し、考察することで新しい自然現象の何かを発見する過程を、実地の演習から学ぶコースです。研究課題に必要な情報をWeb上のデータベースから検索、英語論文を解読するに必要な専門用語の理解を目指します。そして、研究課題に関する基本的な理論と方法論を学習します。さらに、目標として立てた仮説に基づき実験計画を立案し、実施し、得られたデータを解析し、また研究室内でのディスカッションを通して解釈し、オーラルプレゼンテーションや論文によって「世界初の概念を発信する」ことを大きな目標としています。一方で、新しい概念の創出には多大な努力と時間が必要です。年間の時間数は8コマに設定してありますが、実験の進行状況や学生本人の意志で授業時間数の上限はありませんので、科目担当者との相談の上、各自で設定します。また、入学後のいつから基礎研究に関する興味が湧いてくるかは個人差がありますし、また体験だけしたいという希望にも対応するため、コースの参加は1～6年時のいつからでも構いませんし、その間の中断や研究室間の移動も可能です。是非、リサーチャーとして研究の楽しさと醍醐味を体感してください。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	病態に関連する基礎医学の知識を理解し、それらの関連性を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	4・①・C
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	研究課題を遂行する過程で生まれた新たな問題を抽出することができる。

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	5・①・C
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	研究マインドを体得できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	5・⑥・C
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	Web上のデータベースから研究課題に必要な正しい情報を入手し管理できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	6・②・C
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	自らの研究課題に関する英語の専門用語を理解することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	9・③・C
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	研究課題に関する基本的な理論と方法論を説明し、実施できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	10・①・B
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	医学研究の実習実験に関する倫理を理解し実施できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	10・②・B
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	研究課題に関する論文を読み理解することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	10・③・C
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	与えられた研究課題に関して仮説に基づいた実習実験計画を実施することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	10・④・B
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	計画し実施した実験結果を理解し、第三者にその内容を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	10・⑤・C
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	

	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	・研究室の日常業務に参加し、研究の基礎知識を習得する。 ・オンライン上のさまざまなデータベースにアクセスし、取扱いを習得する。 ・実験プロトコールを理解・計画し、簡単な実験を実施する。	
ICT活用 ／ICT Utilization	Web上のデータバンクから目的とする情報を検索し自分の研究に応用することができる。	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30分
	予習内容 ／Preparation content	研究課題に関する英語論文を読み、研究の全体の流れを把握しておく。 実験手技に関するプロトコールを理解し実技に備える。
	復習時間 ／Review time	30分
	復習内容 ／Review content	毎回の実験結果をまとめ、考察と共に実験ノートにまとめる。 当日の実験結果から次回の実験や今後の研究の構想を実験ノートに記載する。
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	・3分の2以上出席した者に対し、各演習の目的の達成度で評価する。特に、自分の研究テーマに活 用できる実験スキルを習得できたか、の視点から評価する。 ・欠席した授業は自主自学の時間や放課後に任意で代講を可能とする。
	最終評価点 ／Final score	授業評価（出席点50%）＋実習評価（実験ノートの提出25%＋研究発表25%）
	合格点 ／passing score	出席2/3以上かつ最終評価60%以上
	筆記試験の形式 ／Written exam format	なし
	再試験・対象者 ／Re-examination and	なし
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	なし
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	なし
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	なし
	再試験・方法 ／Re-examination and method	なし
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	毎回の実験ノートは担当指導教官に評価・補完され、次の実験に向けたアドバイスを受ける機会が ある。

履修上の注意 ／Notes for Course Registration	日程は授業（実習）の進行により常時変更しながら進めるため、各科目担当者の指示に従い相談の上で決定する。 研究室や研究内容が希望したものでなかった、また不適合を感じたなどの場合は、リサーチコース2の履修期間内に所属分野を変更することもできる。 成績優秀者は、リサーチコース2を履修中にリサーチコース3の内容を学習することもできる。
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	基本的にいつでも来室、メール、電話可能　大学キャンパスもしくは大学病院 注）各研究室の場所、連絡先電話番号、メールアドレスは総合事務センターもしくは各科目担当者に問い合わせの上で確認
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
実習	ラボミーティング	研究室の雰囲気に慣れ、研究マインドを体得できる。 研究生活	各科目担当者
実習	ジャーナルクラブ（抄読会）	研究課題に関する論文を読み理解することができる。 英語論文読解	各科目担当者
実習	プログレスレポート	研究室内の教員の研究内容を理解し、研究の基本的な理論と方法論を説明できる。 研究発表	各科目担当者
実習	データベース検索	インターネット上のデータベースから研究課題に必要な情報を検索できる。 データ検索	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者

開講科目名／Course	リサーチ・コース３	
時間割コード ／Course Code	11301600	
ナンバリングコード／Numbering Code	12016	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	3	
主担当教員／Main Instructor	黒田　雅彦	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	黒田 雅彦	
科目担当者 ／Course Instructor	・伊藤正裕（人体構造学）・高橋宗春（組織・神経解剖学）・長尾俊孝（人体病理学）・黒田雅彦（分子病理学）・中村茂樹（微生物学）・横山詩子（細胞生理学）・林由起子（病態生理学）・伊藤美智子（生化学）・金蔵孝介（薬理学）・横須賀忠（免疫学）・井上茂（公衆衛生学）・濱岡隆文（健康増進スポーツ医学）・内ヶ崎西作（法医学）	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	将来、臨床科目を学習し医師として働く上で、基礎医学の知識を理解し、メカニズムと病態と関連させながら考える思考過程「リサーチマンド」を養うことは、とても大切です。本自由選択コースは、配属になった各研究室で与えられる研究課題に関して、実験を計画し、実施し、考察することで新しい自然現象の何かを発見する過程を、実地の演習から学ぶコースです。研究課題に必要な情報をWeb上のデータベースから検索、英語論文を解読するに必要な専門用語の理解を目指します。そして、研究課題に関する基本的な理論と方法論を学習します。さらに、目標として立てた仮説に基づき実験計画を立案し、実施し、得られたデータを解析し、また研究室内でのディスカッションを通して解釈し、オーラルプレゼンテーションや論文によって「世界初の概念を発信する」ことを大きな目標としています。一方で、新しい概念の創出には多大な努力と時間が必要です。年間の時間数は8コマに設定してありますが、実験の進行状況や学生本人の意志で授業時間数の上限はありませんので、科目担当者との相談の上、各自で設定します。また、入学後のいつから基礎研究に関する興味が湧いてくるかは個人差がありますし、また体験だけしたいという希望にも対応するため、コースの参加は1～6年時のいつからでも構いませんし、その間の中断や研究室間の移動も可能です。是非、リサーチャーとして研究の楽しさと醍醐味を体感してください。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	病態に関連する基礎医学の知識を理解し、それらの関連性を提示できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	4・①・B
	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	研究課題を遂行する過程で生まれた新たな問題を抽出し、解決策を見つけることができる。

	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	5・①・B
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	実験に自ら積極的に取り組むことができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	5・⑥・B
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	Web上のデータベースから研究課題に必要な正しい情報を入手し管理できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	6・②・B
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	自らの研究課題に関する英語の専門用語を理解し発信することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	9・③・B
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	研究課題に関する基本的な理論と方法論を説明し、実施できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	10・①・B
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	医学研究の実習実験に関する倫理を理解し実施できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	10・②・B
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	研究課題に関する論文を読み理解し、自分の研究に関して問題提起ができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	10・③・B
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	与えられた研究課題に関して仮説に基づいた実験計画を実施することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	10・④・A
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	計画し実施した実験結果を理解し、第三者にその問題点や次の課題を説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	10・⑤・B
グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	

	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	・研究室に通い、実験を行う現場の雰囲気に慣れる。 ・研究室の日常業務に参加し、研究の基礎知識を習得する。 ・オンライン上のさまざまなデータベースにアクセスし、取扱いを習得する。 ・実験プロトコールを理解・計画し、簡単な実験を実施する。	
ICT活用 ／ICT Utilization	Web上のデータバンクから目的とする情報を検索し自分の研究に応用することができる。	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30分
	予習内容 ／Preparation content	研究課題に関する英語論文を読み、研究の全体の流れを把握しておく。 実験手技に関するプロトコールを理解し実技に備える。
	復習時間 ／Review time	30分
	復習内容 ／Review content	毎回の実験結果をまとめ、考察と共に実験ノートにまとめる。 当日の実験結果から次回の実験や今後の研究の構想を実験ノートに記載する。
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	・3分の2以上出席した者に対し、各演習の目的の達成度で評価する。特に、自分の研究テーマに活 用できる実験スキルを習得できたか、の視点から評価する。 ・欠席した授業は自主自学の時間や放課後に任意で代講を可能とする。
	最終評価点 ／Final score	授業評価（出席点50%）＋実習評価（実験ノートの提出25%＋研究発表25%）
	合格点 ／passing score	出席2/3以上かつ最終評価60%以上
	筆記試験の形式 ／Written exam format	なし
	再試験・対象者 ／Re-examination and	なし
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	なし
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	なし
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	なし
	再試験・方法 ／Re-examination and method	なし
	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	毎回の実験ノートは担当指導教官に評価・補完され、次の実験に向けたアドバイスを受ける機会が ある。

履修上の注意 ／Notes for Course Registration	日程は授業（実習）の進行により常時変更しながら進めるため、各科目担当者の指示に従い相談の上で決定する。 研究室や研究内容が希望したものでなかった、また不適合を感じたなどの場合は、リサーチコース3の履修期間内に所属分野を変更することもできる。 成績優秀者は、リサーチコース3を履修中にリサーチコース4の内容を学習することもできる。
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	基本的にいつでも来室、メール、電話可能　大学キャンパスもしくは大学病院 注）各研究室の場所、連絡先電話番号、メールアドレスは総合事務センターもしくは各科目担当者に問い合わせの上で確認
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
実習	ラボミーティング	研究室の雰囲気に慣れ、研究マインドを体得できる。 研究生活	各科目担当者
実習	ジャーナルクラブ（抄読会）	研究課題に関する論文を読み理解することができる。 英語論文読解	各科目担当者
実習	プログレスレポート	研究室内の教員の研究内容を理解し、研究の基本的な理論と方法論を説明できる。 研究発表	各科目担当者
実習	基本的実験の計画	基本的な理論と方法論を理解し、自身の実験を計画することができる。 研究計画	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者

開講科目名／Course	リサーチ・コース４	
時間割コード ／Course Code	11301700	
ナンバリングコード／Numbering Code	12017	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	4	
主担当教員／Main Instructor	黒田　雅彦	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	黒田 雅彦	
科目担当者 ／Course Instructor	・伊藤正裕（人体構造学）・高橋宗春（組織・神経解剖学）・長尾俊孝（人体病理学）・黒田雅彦（分子病理学）・中村茂樹（微生物学）・横山詩子（細胞生理学）・林由起子（病態生理学）・伊藤美智子（生化学）・金蔵孝介（薬理学）・横須賀忠（免疫学）・井上茂（公衆衛生学）・濱岡隆文（健康増進スポーツ医学）・内ヶ崎西作（法医学）	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	将来、臨床科目を学習し医師として働く上で、基礎医学の知識を理解し、メカニズムと病態と関連させながら考える思考過程「リサーチマンド」を養うことは、とても大切です。本自由選択コースは、配属になった各研究室で与えられる研究課題に関して、実験を計画し、実施し、考察することで新しい自然現象の何かを発見する過程を、実地の演習から学ぶコースです。研究課題に必要な情報をWeb上のデータベースから検索、英語論文を解読するに必要な専門用語の理解を目指します。そして、研究課題に関する基本的な理論と方法論を学習します。さらに、目標として立てた仮説に基づき実験計画を立案し、実施し、得られたデータを解析し、また研究室内でのディスカッションを通して解釈し、オーラルプレゼンテーションや論文によって「世界初の概念を発信する」ことを大きな目標としています。一方で、新しい概念の創出には多大な努力と時間が必要です。年間の時間数は8コマに設定してありますが、実験の進行状況や学生本人の意志で授業時間数の上限はありませんので、科目担当者との相談の上、各自で設定します。また、入学後のいつから基礎研究に関する興味が湧いてくるかは個人差がありますし、また体験だけしたいという希望にも対応するため、コースの参加は1～6年時のいつからでも構いませんし、その間の中断や研究室間の移動も可能です。是非、リサーチャーとして研究の楽しさと醍醐味を体感してください。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	病態に関連する基礎医学の知識を理解し、それらの関連性を提示できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	4・①・C

	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	研究課題を遂行する過程で生まれた新たな問題を抽出・解決し、それを疾患の理解に結び付けることができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	5・①・A
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	研究内容を理解し、発表に関心を示すことができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	5・⑥・A
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	Web上のデータベースから研究課題に必要な正しい情報を入手し管理できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	6・②・A
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	自らの研究課題に関して海外の研究者と英語で討論することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	9・③・A
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	研究課題に関して理論と方法論を理解し、自分の意志で自由に実験を実施できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	10・①・A
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	医学研究に関する倫理を理解し実施できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	10・②・A
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	研究課題に関して問題提起し、さらに解決の工夫が説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	10・③・A
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	与えられた研究課題に関して仮説に基づいた実験計画を実施することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	10・④・A
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	計画し実施した実験結果を口頭や文書で発表し、第三者に納得させることができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	10・⑤・A

グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	・研究室に通い、実験を行う現場の雰囲気に慣れる。 ・研究室の日常業務に参加し、研究の基礎知識を習得する。 ・オンライン上のさまざまなデータベースにアクセスし、取扱いを習得する。 ・担当指導教員に付き沿い、シャドーイングにて実験手技を理解する。 ・実験プロトコールを理解・計画し、簡単な実験を実施する。 ・実験結果を考察・討論し結果をまとめる。	
ICT活用 ／ICT Utilization	Web上のデータバンクから目的とする情報を検索し自分の研究に応用することができる。	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30分
	予習内容 ／Preparation content	研究課題に関する英語論文を読み、研究の全体の流れを把握しておく。 実験手技に関するプロトコールを理解し実技に備える。
	復習時間 ／Review time	30分
	復習内容 ／Review content	毎回の実験結果をまとめ、考察と共に実験ノートにまとめる。 当日の実験結果から次回の実験や今後の研究の構想を実験ノートに記載する。
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	・3分の2以上出席した者に対し、各演習の目的の達成度で評価する。特に、自分の研究テーマに活 用できる実験スキルを習得できたか、の視点から評価する。 ・欠席した授業は自主自学の時間や放課後に任意で代講を可能とする。
	最終評価点 ／Final score	授業評価（出席点50%）＋実習評価（実験ノートの提出25%＋研究発表25%）
	合格点 ／passing score	出席2/3以上かつ最終評価60%以上
	筆記試験の形式 ／Written exam format	なし
	再試験・対象者 ／Re-examination and	なし
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	なし
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	なし
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	なし
	再試験・方法 ／Re-examination and method	なし

	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	毎回の実験ノートは担当指導教官に評価・補完され、次の実験に向けたアドバイスを受ける機会が ある。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	日程は授業（実習）の進行により常時変更しながら進めるため、各科目担当者の指示に従い相談の上で決定する。 研究室や研究内容が希望したものでなかった、また不適合を感じたなどの場合は、リサーチコース4の履修期間内に所属分野を変更することもできる。 成績優秀者は、リサーチコース4を履修中にリサーチコース5の内容を学習することもできる。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	基本的にいつでも来室、メール、電話可能　大学キャンパスもしくは大学病院 注）各研究室の場所、連絡先電話番号、メールアドレスは総合事務センターもしくは各科目担当者に問い合わせの上で確認	
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認	
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
実習	ラボミーティング	研究室の雰囲気に慣れ、研究マインドを体得できる。 研究生活	各科目担当者
実習	ジャーナルクラブ（抄読会）	研究課題に関する論文を読み理解することができる。 英語論文読解	各科目担当者
実習	プログレスレポート	研究室内の教員の研究内容を理解し、研究の基本的な理論と方法論を説明できる。 研究発表	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	実験の総括	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。 研究の総括	各科目担当者
実習	実験の総括	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。 研究の総括	各科目担当者
実習	実験の総括	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。 研究の総括	各科目担当者

開講科目名／Course	リサーチ・コース５	
時間割コード ／Course Code	11301800	
ナンバリングコード／Numbering Code	13018	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	5	
主担当教員／Main Instructor	黒田　雅彦	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	黒田 雅彦	
科目担当者 ／Course Instructor	・伊藤正裕（人体構造学）・高橋宗春（組織・神経解剖学）・長尾俊孝（人体病理学）・黒田雅彦（分子病理学）・中村茂樹（微生物学）・横山詩子（細胞生理学）・林由起子（病態生理学）・伊藤美智子（生化学）・金蔵孝介（薬理学）・横須賀忠（免疫学）・井上茂（公衆衛生学）・濱岡隆文（健康増進スポーツ医学）・内ヶ崎西作（法医学）	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	将来、臨床科目を学習し医師として働く上で、基礎医学の知識を理解し、メカニズムと病態と関連させながら考える思考過程「リサーチマンド」を養うことは、とても大切です。本自由選択コースは、配属になった各研究室で与えられる研究課題に関して、実験を計画し、実施し、考察することで新しい自然現象の何かを発見する過程を、実地の演習から学ぶコースです。研究課題に必要な情報をWeb上のデータベースから検索、英語論文を解読するに必要な専門用語の理解を目指します。そして、研究課題に関する基本的な理論と方法論を学習します。さらに、目標として立てた仮説に基づき実験計画を立案し、実施し、得られたデータを解析し、また研究室内でのディスカッションを通して解釈し、オーラルプレゼンテーションや論文によって「世界初の概念を発信する」ことを大きな目標としています。一方で、新しい概念の創出には多大な努力と時間が必要です。年間の時間数は8コマに設定してありますが、実験の進行状況や学生本人の意志で授業時間数の上限はありませんので、科目担当者との相談の上、各自で設定します。また、入学後のいつから基礎研究に関する興味が湧いてくるかは個人差がありますし、また体験だけしたいという希望にも対応するため、コースの参加は1～6年時のいつからでも構いませんし、その間の中断や研究室間の移動も可能です。是非、リサーチャーとして研究の楽しさと醍醐味を体感してください。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	病態に関連する基礎医学の知識を理解し、それらの関連性を提示できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	4・①・C

	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	研究課題を遂行する過程で生まれた新たな問題を抽出・解決し、それを疾患の理解に結び付けるこ とができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	5・①・A
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	研究内容を理解し、発表に関心を示すことができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	5・⑥・A
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	Web上のデータベースから研究課題に必要な正しい情報を入手し管理できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	6・②・A
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	自らの研究課題に関して海外の研究者と英語で討論することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	9・③・A
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	研究課題に関して理論と方法論を理解し、自分の意志で自由に実験を実施できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	10・①・A
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	医学研究に関する倫理を理解し実施できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	10・②・A
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	研究課題に関して問題提起し、さらに解決の工夫が説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	10・③・A
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	与えられた研究課題に関して仮説に基づいた実験計画を実施することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	10・④・A
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	計画し実施した実験結果を口頭や文書で発表し、第三者に納得させることができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	10・⑤・A

グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	・研究室に通い、実験を行う現場の雰囲気に慣れる。 ・研究室の日常業務に参加し、研究の基礎知識を習得する。 ・オンライン上のさまざまなデータベースにアクセスし、取扱いを習得する。 ・担当指導教員に付き沿い、シャドーイングにて実験手技を理解する。 ・実験プロトコールを理解・計画し、簡単な実験を実施する。 ・実験結果を考察・討論し結果をまとめる。	
ICT活用 ／ICT Utilization	Web上のデータバンクから目的とする情報を検索し自分の研究に応用することができる。	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30分
	予習内容 ／Preparation content	研究課題に関する英語論文を読み、研究の全体の流れを把握しておく。 実験手技に関するプロトコールを理解し実技に備える。
	復習時間 ／Review time	30分
	復習内容 ／Review content	毎回の実験結果をまとめ、考察と共に実験ノートにまとめる。 当日の実験結果から次回の実験や今後の研究の構想を実験ノートに記載する。
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	・3分の2以上出席した者に対し、各演習の目的の達成度で評価する。特に、自分の研究テーマに活 用できる実験スキルを習得できたか、の視点から評価する。 ・欠席した授業は自主自学の時間や放課後に任意で代講を可能とする。
	最終評価点 ／Final score	授業評価（出席点50%）＋実習評価（実験ノートの提出25%＋研究発表25%）
	合格点 ／passing score	出席2/3以上かつ最終評価60%以上
	筆記試験の形式 ／Written exam format	なし
	再試験・対象者 ／Re-examination and	なし
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	なし
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	なし
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	なし
	再試験・方法 ／Re-examination and method	なし

	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	毎回の実験ノートは担当指導教官に評価・補完され、次の実験に向けたアドバイスを受ける機会が ある。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	日程は授業（実習）の進行により常時変更しながら進めるため、各科目担当者の指示に従い相談の上で決定する。 研究室や研究内容が希望したものでなかった、また不適合を感じたなどの場合は、リサーチコース5の履修期間内に所属分野を変更することもできる。 成績優秀者は、リサーチコース5を履修中にリサーチコース6の内容を学習することもできる。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	基本的にいつでも来室、メール、電話可能　大学キャンパスもしくは大学病院 注）各研究室の場所、連絡先電話番号、メールアドレスは総合事務センターもしくは各科目担当者に問い合わせの上で確認	
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認	
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
実習	ラボミーティング	研究室の雰囲気に慣れ、研究マインドを体得できる。 研究生活	各科目担当者
実習	ジャーナルクラブ（抄読会）	研究課題に関する論文を読み理解することができる。 英語論文読解	各科目担当者
実習	プログレスレポート	研究室内の教員の研究内容を理解し、研究の基本的な理論と方法論を説明できる。 研究発表	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	実験の総括	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。 研究の総括	各科目担当者
実習	実験の総括	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。 研究の総括	各科目担当者
実習	実験の総括	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。 研究の総括	各科目担当者

開講科目名／Course	リサーチ・コース６	
時間割コード ／Course Code	11301900	
ナンバリングコード／Numbering Code	13019	
開講所属／Course Offered by	医学部医学科／	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　前期／First Semester	
曜限／Day, Period	他／Others	
開講区分／semester offered	通年／One-Year	
単位数／Credits	0.5	
学年／Year	6	
主担当教員／Main Instructor	黒田　雅彦	
科目区分／Course Group	自由な学び　／自由な学び	
教室／Classroom		
必修/選択 ／Required/Elective	自由	
授業形態 ／class format	演習	
科目責任者 ／Course Coordinator	黒田 雅彦	
科目担当者 ／Course Instructor	・伊藤正裕（人体構造学）・高橋宗春（組織・神経解剖学）・長尾俊孝（人体病理学）・黒田雅彦（分子病理学）・中村茂樹（微生物学）・横山詩子（細胞生理学）・林由起子（病態生理学）・伊藤美智子（生化学）・金蔵孝介（薬理学）・横須賀忠（免疫学）・井上茂（公衆衛生学）・濱岡隆文（健康増進スポーツ医学）・内ヶ崎西作（法医学）	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況） ／Courses Taught by Faculty with Practical Experience (Status of Inclusion)		
アクティブラーニングへの適用 ／Application to Active		
授業目的・概要 ／Course Objectives and Overview	将来、臨床科目を学習し医師として働く上で、基礎医学の知識を理解し、メカニズムと病態と関連させながら考える思考過程「リサーチマンド」を養うことは、とても大切です。本自由選択コースは、配属になった各研究室で与えられる研究課題に関して、実験を計画し、実施し、考察することで新しい自然現象の何かを発見する過程を、実地の演習から学ぶコースです。研究課題に必要な情報をWeb上のデータベースから検索、英語論文を解読するに必要な専門用語の理解を目指します。そして、研究課題に関する基本的な理論と方法論を学習します。さらに、目標として立てた仮説に基づき実験計画を立案し、実施し、得られたデータを解析し、また研究室内でのディスカッションを通して解釈し、オーラルプレゼンテーションや論文によって「世界初の概念を発信する」ことを大きな目標としています。一方で、新しい概念の創出には多大な努力と時間が必要です。年間の時間数は8コマに設定してありますが、実験の進行状況や学生本人の意志で授業時間数の上限はありませんので、科目担当者との相談の上、各自で設定します。また、入学後のいつから基礎研究に関する興味が湧いてくるかは個人差がありますし、また体験だけしたいという希望にも対応するため、コースの参加は1～6年時のいつからでも構いませんし、その間の中断や研究室間の移動も可能です。是非、リサーチャーとして研究の楽しさと醍醐味を体感してください。	
授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応 ／Course Learning Objectives and Alignment with Diploma	授業の到達目標① ／Course Learning Objectives(1)	病態に関連する基礎医学の知識を理解し、それらの関連性を提示できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応① ／Alignment with Diploma Policy (1)	4・①・C

	授業の到達目標② ／Course Learning Objectives(2)	研究課題を遂行する過程で生まれた新たな問題を抽出・解決し、それを疾患の理解に結び付けるこ とができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応② ／Alignment with Diploma Policy (2)	5・①・A
	授業の到達目標③ ／Course Learning Objectives(3)	研究内容を理解し、発表に関心を示すことができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応③ ／Alignment with Diploma Policy (3)	5・⑥・A
	授業の到達目標④ ／Course Learning Objectives(4)	Web上のデータベースから研究課題に必要な正しい情報を入手し管理できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応④ ／Alignment with Diploma Policy (4)	6・②・A
	授業の到達目標⑤ ／Course Learning Objectives(5)	自らの研究課題に関して海外の研究者と英語で討論することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑤ ／Alignment with Diploma Policy (5)	9・③・A
	授業の到達目標⑥ ／Course Learning Objectives(6)	研究課題に関して理論と方法論を理解し、自分の意志で自由に実験を実施できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑥ ／Alignment with Diploma Policy (6)	10・①・A
	授業の到達目標⑦ ／Course Learning Objectives(7)	医学研究に関する倫理を理解し実施できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑦ ／Alignment with Diploma Policy (7)	10・②・A
	授業の到達目標⑧ ／Course Learning Objectives(8)	研究課題に関して問題提起し、さらに解決の工夫が説明できる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑧ ／Alignment with Diploma Policy (8)	10・③・A
	授業の到達目標⑨ ／Course Learning Objectives(9)	与えられた研究課題に関して仮説に基づいた実験計画を実施することができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑨ ／Alignment with Diploma Policy (9)	10・④・A
	授業の到達目標⑩ ／Course Learning	計画し実施した実験結果を口頭や文書で発表し、第三者に納得させることができる。
	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応⑩ ／Alignment with Diploma Policy (10)	10・⑤・A

グループ別自主研究 ／Independent Research by Groups	研究課題名 ／Research Project Title	
	所属分野 ／Affiliated Field	
	担当者 ／Person in Charge	
	研究目的・内容・方法等 ／Research Objectives, Content, and Methods	
	研究場所 ／Research Location	
	備考 ／Ot	
授業の進め方と方法 ／Class Approach and Methods	・研究室に通い、実験を行う現場の雰囲気に慣れる。 ・研究室の日常業務に参加し、研究の基礎知識を習得する。 ・オンライン上のさまざまなデータベースにアクセスし、取扱いを習得する。 ・担当指導教員に付き沿い、シャドーイングにて実験手技を理解する。 ・実験プロトコールを理解・計画し、簡単な実験を実施する。 ・実験結果を考察・討論し結果をまとめる。	
ICT活用 ／ICT Utilization	Web上のデータバンクから目的とする情報を検索し自分の研究に応用することができる。	
授業時間外の学習 ／Study outside of class hours	予習時間 ／Preparation time	30分
	予習内容 ／Preparation content	研究課題に関する英語論文を読み、研究の全体の流れを把握しておく。 実験手技に関するプロトコールを理解し実技に備える。
	復習時間 ／Review time	30分
	復習内容 ／Review content	毎回の実験結果をまとめ、考察と共に実験ノートにまとめる。 当日の実験結果から次回の実験や今後の研究の構想を実験ノートに記載する。
成績評価方法・基準 ／Grading methods and standards	評価の方法と内訳（%） ／Evaluation method and breakdown (%)	・3分の2以上出席した者に対し、各演習の目的の達成度で評価する。特に、自分の研究テーマに活 用できる実験スキルを習得できたか、の視点から評価する。 ・欠席した授業は自主自学の時間や放課後に任意で代講を可能とする。
	最終評価点 ／Final score	授業評価（出席点50%）＋実習評価（実験ノートの提出25%＋研究発表25%）
	合格点 ／passing score	出席2/3以上かつ最終評価60%以上
	筆記試験の形式 ／Written exam format	なし
	再試験・対象者 ／Re-examination and	なし
	再試験・実施時期 ／Re-examination and implementation period	なし
	再試験・範囲 ／Re-examination/Scope	なし
	再試験・難易度 ／Re-examination and difficulty level	なし
	再試験・方法 ／Re-examination and method	なし

	課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法 ／How to provide feedback on assignments (exams, reports, etc.)	毎回の実験ノートは担当指導教官に評価・補完され、次の実験に向けたアドバイスを受ける機会が ある。
履修上の注意 ／Notes for Course Registration	日程は授業（実習）の進行により常時変更しながら進めるため、各科目担当者の指示に従い相談の上で決定する。 研究室や研究内容が希望したものでなかった、また不適合を感じたなどの場合は、リサーチコース6の履修期間内に所属分野を変更することもできる。	
オフィスアワー（担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど） ／Office Hours	基本的にいつでも来室、メール、電話可能　大学キャンパスもしくは大学病院 注）各研究室の場所、連絡先電話番号、メールアドレスは総合事務センターもしくは各科目担当者に問い合わせの上で確認	
教科書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Textbook (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認	
参考書（書籍名、著書名、出版社名、費用など） ／Reference Book (Title, Author, Publisher, Cost, etc.)	各研究室に問い合わせの上で確認	

授業計画詳細／Course schedule

回（日時） ／Time (date and time)	主題と位置付け（担当） ／Subjects and instructor's position	学習方法と内容 ／Methods and contents	備考 ／Notes
実習	ラボミーティング	研究室の雰囲気に慣れ、研究マインドを体得できる。 研究生活	各科目担当者
実習	ジャーナルクラブ（抄読会）	研究課題に関する論文を読み理解することができる。 英語論文読解	各科目担当者
実習	プログレスレポート	研究室内の教員の研究内容を理解し、研究の基本的な理論と方法論を説明できる。 研究発表	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	基本的実験手技の実施	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。 研究手技	各科目担当者
実習	実験の総括	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。 研究の総括	各科目担当者
実習	実験の総括	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。 研究の総括	各科目担当者
実習	実験の総括	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。 研究の総括	各科目担当者